



サウンドコネクション代表  
中村 泰規氏

カーセキュリティ界の牽引役として多忙な日々を送る傍ら、バイク・チューニングでは自らのパーツブランドを立ち上げるほどの二輪マニア。バイクオーナーからの信頼も厚い。

【サウンドコネクション】  
TEL.046-263-5945  
http://www.soundconnection.co.jp/

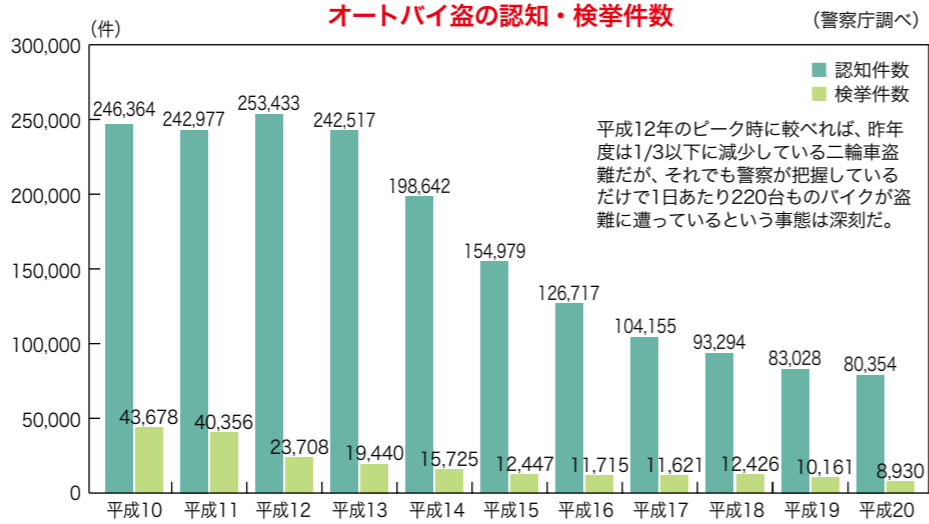


**バイク専用システム**

最近では四輪車用の流用ではなく、二輪車専用モデルとして開発されているセキュリティ装置が目立っている(写真上)。低価格で機能が充実したホーネットB1(写真右)。本格セキュリティとして四輪用にも引けを取らない機能を誇るマーリン3000。



**スクーターに最適**  
サイレン一体型のコンパクトな本体をもつホーネットB1なら、小型スクーターにも充分インストール可能。位置情報確認システムも追加できる。



**盗難件数は減少しているが  
深刻な事態であることに変わりはない**



**見せるセキュリティ**

ステンレス製45mmφで、75tクラスの油圧カッターでも切断不可能なキタコのBM-10。実際の強度もさることながら、視覚的に「盗みにくい」という印象も重要。

**普及バイクにも必要  
身近になっている二輪用システム**  
カーセキュリティ業界では老舗であり、早くから二輪のセキュリティも手がけてきた神奈川県・サウンドコネクション代表の中村泰規氏は、現状をこう分析する。「まず、バイクのオーナーが危機意識を持たなすぎる…これが問題ですね。自分のバイクは大丈夫という意識は捨て、防犯に気を遣っているということをアピールすべきです。チェーンやU字形の物理的なロック、そしてさらにクルマと同様のセキュリティ装置。今は二輪専用のコンパクトで完全防水、省電力型の商品が出てますので、

二輪用セキュリティもずっと身近になつてくるんですよ」  
ひと昔前なら、セキュリティは高価な輸入バイクに付けるモノ…という考えが一般的だったが、現在はスクーターや実用車などにも被害が広がっており、ユーザー数の多いバイクにこそ、積極的な防犯対策が必要だろう。  
現状では、スクーターにこそ…までは…というオーナーも多いだろう。しかし、ベーシックな機能の機種であれば比較的安価に導入可能だ。  
まずは広く二輪用セキュリティを普及させ、バイク盗も容易ではない…という環境作りも今後の必須課題であろう。



**“裸”のバイクだからこそ  
しっかりした守りを!!**

カーセキュリティほど浸透していない二輪セキュリティ…しかし、バイクはクルマ以上に被害を受けやすいことも事実…オーナーの防犯意識向上や防犯装置の普及は二輪の世界でも急務だ  
文/内藤知己 写真/山岡和正

統計上では減っている二輪盗難。現実的には深刻な事態なのだ。クルマに較べて容易に盗めてしまう二輪車こそ、ある意味クルマ以上に盗難対策が必要であることは自明の理と言える。しかし、現実的にはまだまだオーナー自身の防犯意識は希薄なのが現状。「まさか自分のバイクは盗られないだろう」というオーナーは非常に多い。左ページ上のグラフでも分かるように、二輪車の盗難件数自体は年々減少傾向にあることも事実。しかし、平成13年以前に較べて約1/3に減ったとは言え、1日あたり220台もの二輪車が盗まれている(昨年現状は、やはり異常だ。しかもこれは、警察庁が把握し

クルマに較べて容易に盗めてしまう二輪車こそ、ある意味クルマ以上に盗難対策が必要であることは自明の理と言える。しかし、現実的にはまだまだオーナー自身の防犯意識は希薄なのが現状。「まさか自分のバイクは盗られないだろう」というオーナーは非常に多い。左ページ上のグラフでも分かるように、二輪車の盗難件数自体は年々減少傾向にあることも事実。しかし、平成13年以前に較べて約1/3に減ったとは言え、1日あたり220台もの二輪車が盗まれている(昨年現状は、やはり異常だ。しかもこれは、警察庁が把握し



専用工具を使わないと外せないボルト等も盗難抑止効果は大きい。いわゆる“出来心犯”に対しては、大きな効果がある。

ている車両盗難だけの数字であり、被害届が出されていないケースや、パーツ盗難、イタズラ等は含まれていないデータである。つまり、実際の被害者数はこの数字の何倍にもなることが推測できる。  
分解して海外に輸出…という組織的な窃盗から、パーツ欲しさにあるいは、盗んで乗り回した後は放置…といったケースまで、さまざまな被害が報告されているが、狙われるタイプも多岐にわたっている。高価な輸入車はもちろん、最近流行りのビッグスクーターから原付の実用車まで、実に幅が広いのが二輪盗難の特徴でもある。

**「安全」は有償**  
二輪車専用の有料駐輪場を利用しよう心がけるのも防犯の第一歩。この手の場所が絶対安全とは限らないが、安全はタダではない…とオーナー自身意識することが一番重要なのだ。

